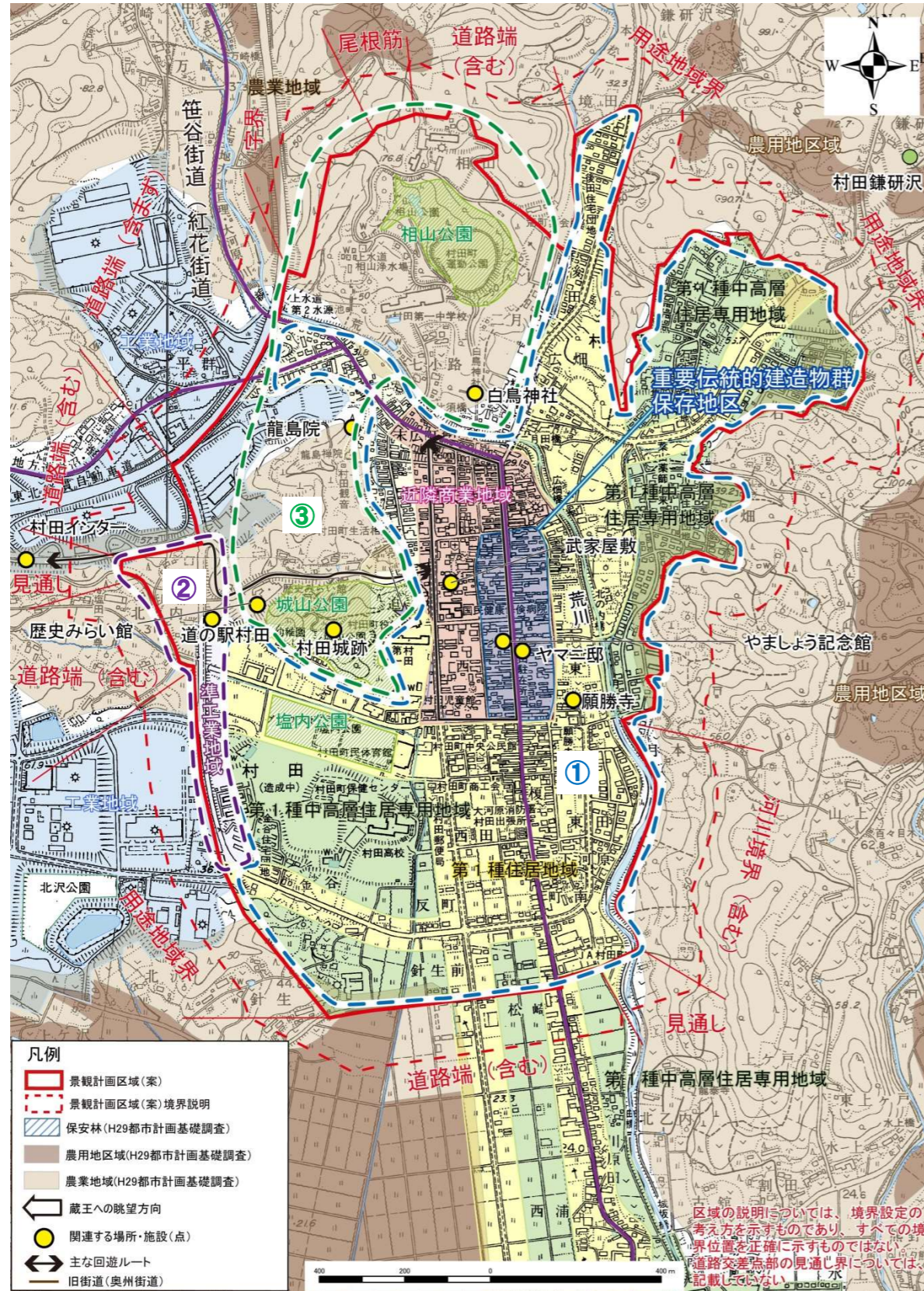


区域名	仙南地域広域景観計画区域	
地区名	村田町中心部地区	<p>当該区域を指定する目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街道沿いに形成された歴史的な商業都市として栄えたことを今に伝える中心部の重要伝統的建造物群保存地区を核に、近代化とともに広がりながら形成されてきた現在の中心部及び周辺の住居系市街地を対象に、村田の歴史と伝統を活かした魅力ある市街地の形成を図ることを目的とする。 ・重要伝統的建造物群保存地区を中心とする周辺市街地を対象に、歴史的な町並みと調和した市街地景観と合わせ、村田町の中心を担う一体的な市街地景観形成を図ることを目的とし、景観計画区域を指定する。
市町名	村田町	

区域の範囲（位置図）	地区内で見られる景観（景観の概況）
------------	-------------------



■仙南地域らしさを象徴する景観

- ・重要伝統的建造物群保存地区に指定されている「蔵の街並み」は、紅花や藍の交易で栄えた商業都市に由来し、店蔵と門が連続する特徴ある歴史的な町並みが維持されている。
- ・重要伝統的建造物群保存地区を含む地区中心部には古い町割りや住宅が残り、一体的な街並み景観を形成している。

■地区固有の景観

- ・蔵のある通り沿いは南北に長い街区となっており、建物の間から背後に迫る里山までを見通すことができる。
- ・重要伝統的建造物群保存地区外には住宅や店舗が見られる。地区中心部は平坦だが、周囲は起伏が多い地形となっており、周辺を里山に囲まれた盆地となっている。
- ・地区中心部から外れると、北東の方向に近年住宅地として造成された住宅街がみられる。

区域設定の考え方

■基本的な考え方

歴史的な商業都市である重要伝統的建造物群保存地区を中心に、村田町の人々が暮らす市街地（工業団地等の工業エリアを除く）を対象に、歴史的な地区と調和した市街地景観の形成を図る必要がある。

■個別の考え方

①歴史的な町並みの残る地区の周囲に広がる既存市街地

村田町の歴史的な特性を伝えつつ、それらと調和した快適かつ潤いある住環境の形成を目指し、歴史的な町並みと周囲に広がる丘陵地の緑と調和した市街地景観の形成に向け、中心部と一体的に景観形成を図る必要があるため、区域に含めた。

②村田インターチェンジ周辺及びインターと中心部を結ぶ幹線道路沿い

村田インターチェンジ周辺及びインターと中心部を結ぶ幹線道路沿いは、広域的な交通ネットワークである東北自動車道からの来訪者を迎える玄関口としての役割を担っており、歴史的な町並みを有する市街地へとつながる景観形成を目指し落ち着いた景観形成に向けた配慮を求める必要があることから、区域に含めた。

③城山公園から龍島院、相山公園等からなる丘陵地

城址である城山公園から龍島院、相山公園等からなる丘陵地は、歴史と自然が調和した緑豊かな環境として、地域の人々に親しまれている場であることをふまえ、市街地と一体的に利用される自然地として、自然環境の保全と市街地景観との調和を図る必要があるため、区域に含めた。

区域内で見られる景観

●白鳥神社と周囲の街並み

白鳥神社は、仙南地域に広く信仰されている白鳥信仰に基づいた神社で、地域の信仰を伝える重要な要素となっている。

また、周囲の街並みは低層の建築物を中心とした街並みが広がり、街道に向かって南北に奥行きがある町割りが残り、街道沿いに発展した街並みの名残がうかがえる。



▲白鳥神社（図内赤矢印）

●丘陵地及びそこから眺め

当該地区の周囲は、城山公園、龍島院、相山公園などの丘陵地に囲まれており、緑豊かな景観が見られる。龍島院からは市街地を望むことができ、低層の建築物を中心とした村田町の中心部と、その向こうに広がる里山が調和した穏やかな街並み景観を望むことができる。



▲龍島院から市街地を望む

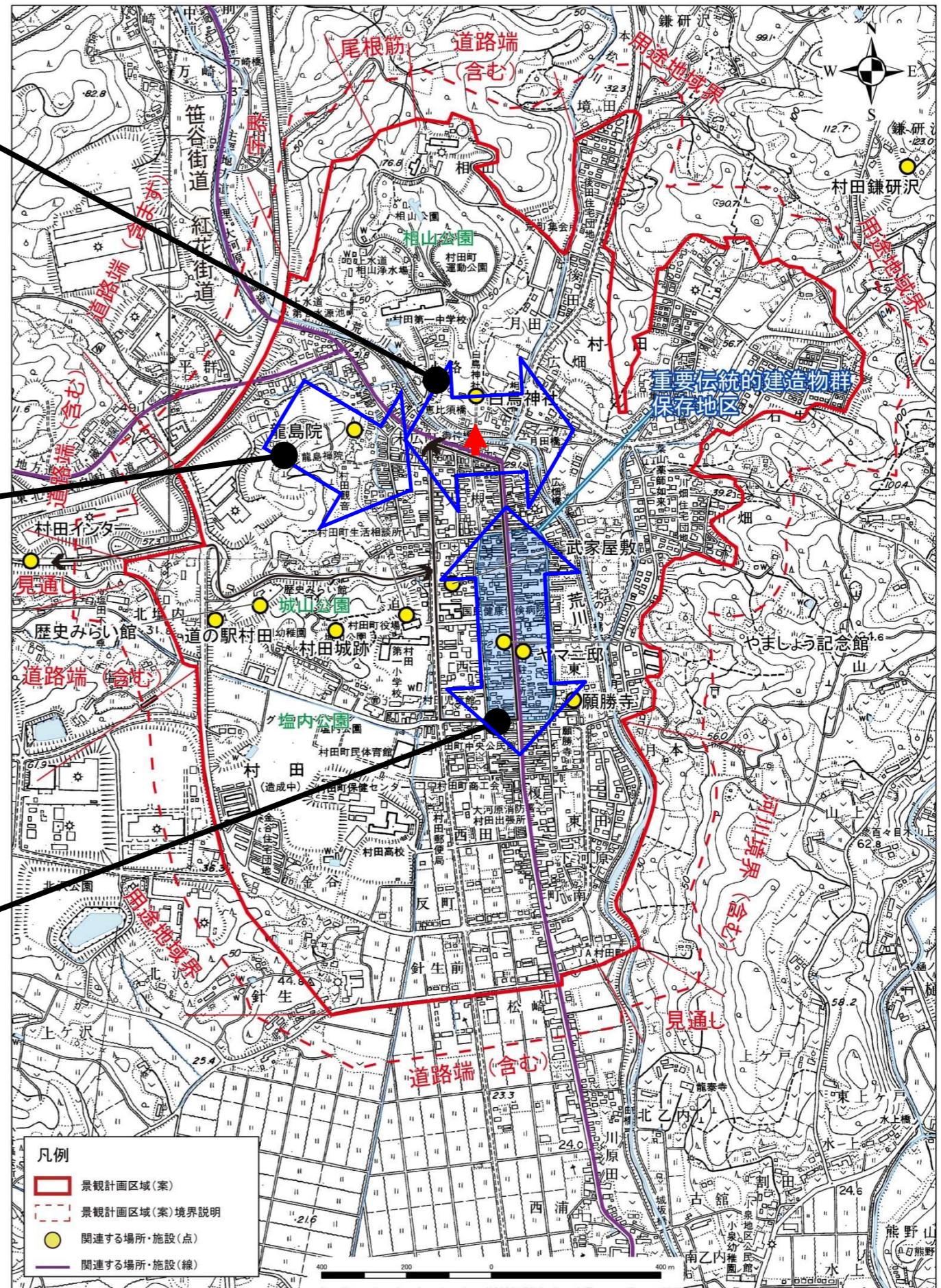
●蔵の街並み

かつて紅花などの流通で栄えた村田町は、商家の蔵が立ち並ぶ街並みが重要伝統的建造物群保存地区に指定され、その歴史性を伝える景観を形成している。

町割りは東西に奥行きがあり、やましよう記念館では道沿いにある蔵のみならず中庭や奥の蔵を見学することができ、街並みの景観を形づくる由来を伝える重要な要素となっている。



▲村田蔵の町並み



凡例

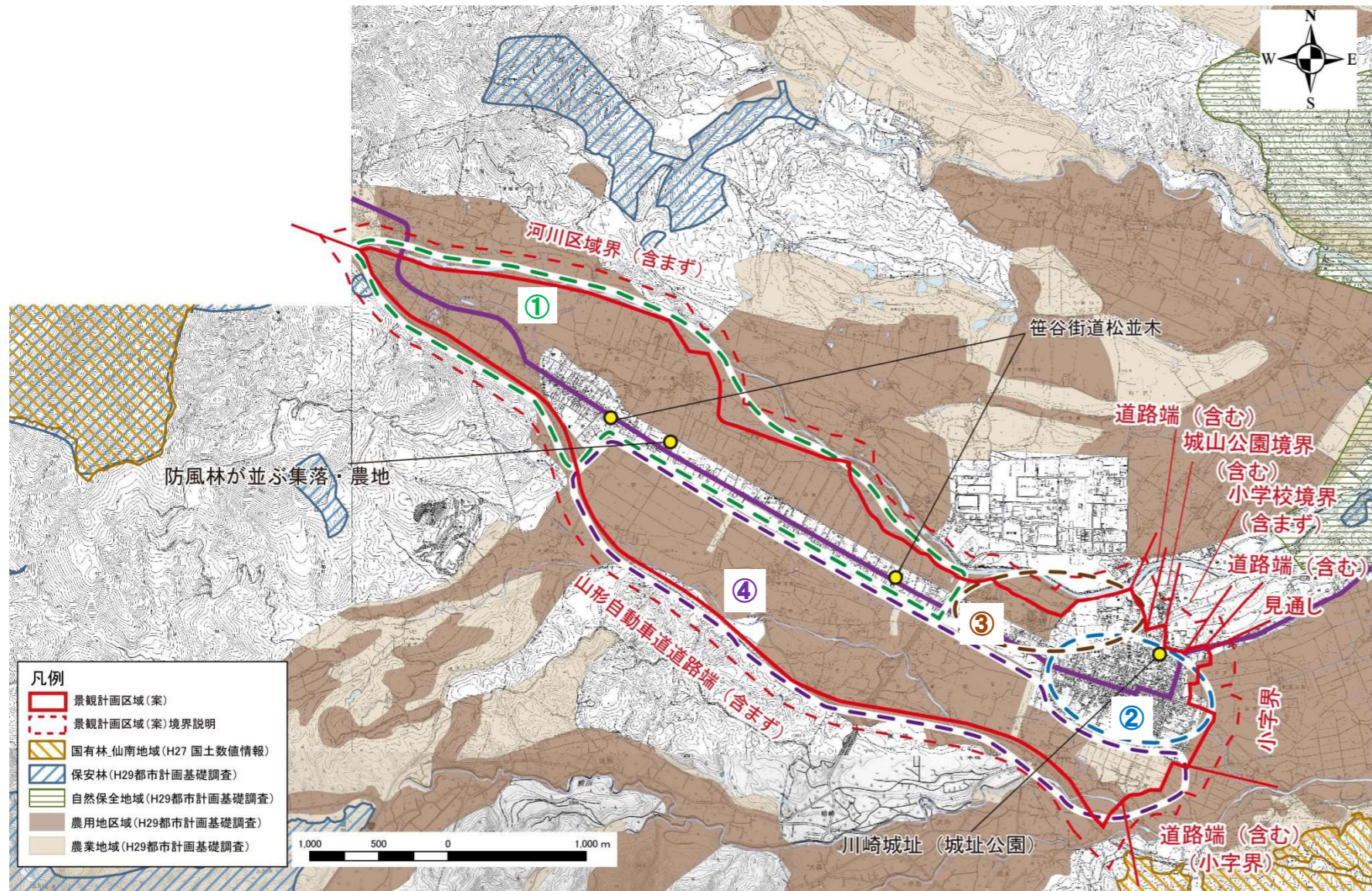
- 景観計画区域(案)
- 景観計画区域(案)境界説明
- 関連する場所・施設(点)
- 関連する場所・施設(線)

凡例

- ⇐ 地域を象徴する景観が見られるおおよその範囲
- および向き
- ↑ 写真の撮影場所・エリアおよび写真の撮影方向

区域名	仙南地域広域景観計画区域		
地区名	川崎町中心部地区	当該区域を指定する目的	<ul style="list-style-type: none"> かつての川崎城下町として形成された町の中心部と、旧笹谷街道である国道 286 号沿いに広がる農村景観と街道の名残を今に伝える松並木等が一体となって形成されている川崎町らしさを育む景観について、その特性を継承した、地域の魅力を高める景観づくりやまちづくりの取組のきっかけづくりとすることを目的とし、景観計画区域を指定する。
市町名	川崎町		

区域の範囲（位置図）



※仙南地域広域景観マスタープランの修正に伴い区域を精査

地区内で見られる景観（景観の概況）

■仙南地域らしさを象徴する景観

- 川崎町の中央を貫くかつての笹谷街道である国道 286 号には、街道であった歴史を伝える松並木が連続する特徴ある通り景観が形成されている。
- 旧街道沿いに広がる農村集落では、一定の間隔で防風林が立ち並ぶことにより、農地や集落を守っている特徴ある農村景観が形成されている。
- 川崎城址である城山公園からは、落葉樹の葉が落ちた冬には、木々の間から旧城下町や農村集落を一望することができ、蔵王連峰を遠景に望むことができる。

■地区固有の景観

- 旧川崎城下町に由来する川崎町の中心部の旧街道筋に当たる地区では、商店街が形成され、賑わいの景観が見られ、その周囲には低層住宅を中心とした市街地が広がる。
- 旧川崎城下町の周辺部では、病院、学校、住宅等が立地し、建築物と農地が混在する景観が見られる。
- 笹谷街道南側には、まとまった水田が広がり、穏やかな農業の景観が見られる。

区域設定の考え方

■基本的な考え方

かつての笹谷街道である国道 286 号周辺に広がる防風林が特徴的な沿道の農村集落において、その特徴的な景観の保全と調和を求める。また川崎町の中心部である旧城下町由来の市街地においては、長期総合計画に示された計画的な土地利用推進（住環境の保護を第一に、住・商・工の都市機能がバランスよく集積したコンパクトな中心市街地の形成）と併せて計画的な市街地環境の保全・形成を図りつつ、町の歴史性を活かす景観形成を目指した区域を設定する。

■個別の考え方

①松並木や防風林による特徴的な景観を有する農村集落

かつての笹谷街道から北側に広がる農村集落は、松並木や防風林による特徴的な農村集落景観の保全と調和を図るため、区域に含めた。

②旧川崎城下町に由来する川崎町中心部

旧川崎城下町に由来する当時の町割を残す川崎町の中心部は、歴史的な町割や街道筋を活かした通り景観や商店街による賑わいの景観の保全・形成を図るため、区域に含めた。

③旧川崎城下町周辺の市街地

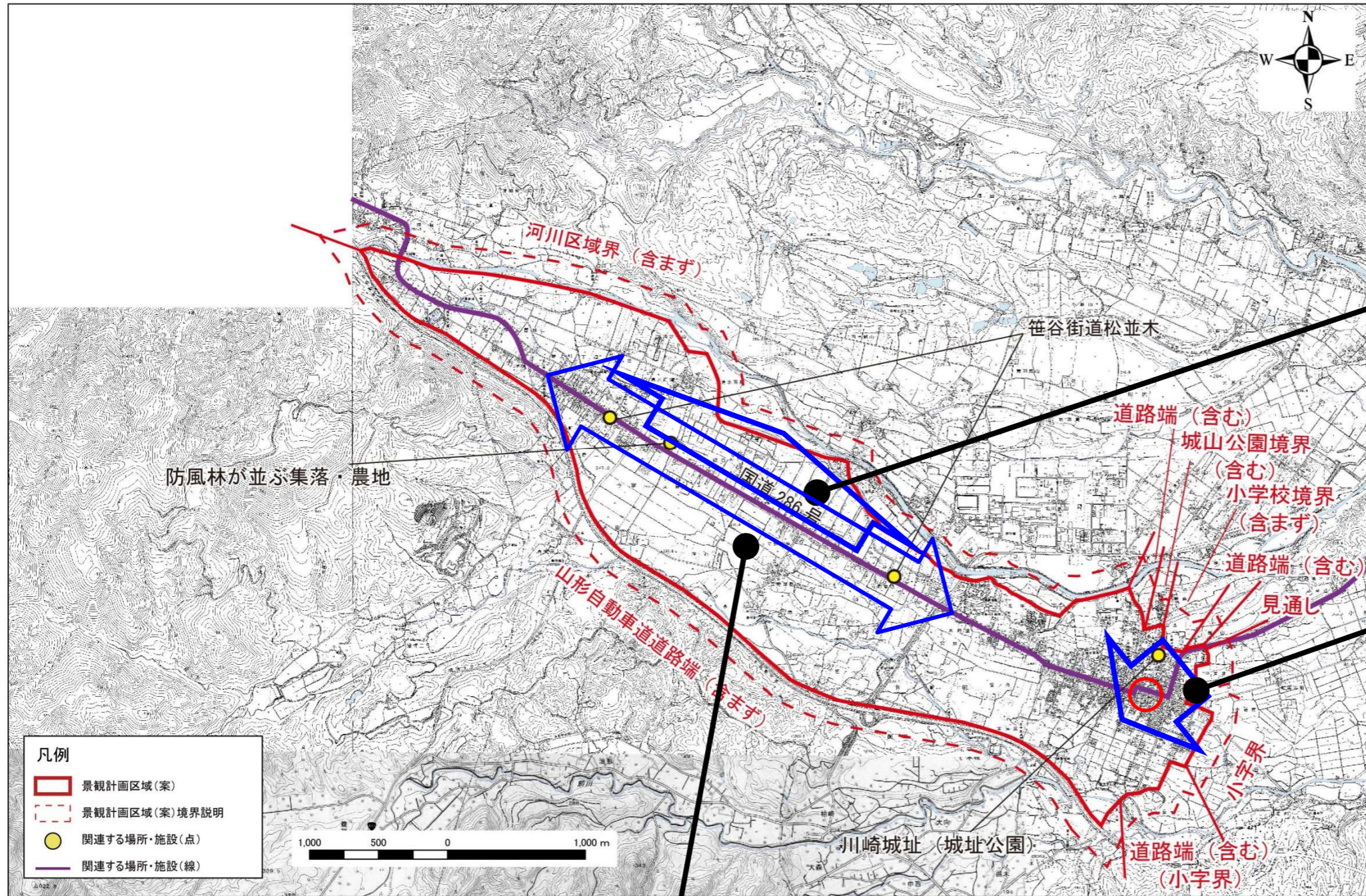
旧川崎城下町と連担して中心部を形成する市街地は、計画的な土地利用推進とともに、景観形成の取組を通じて良好な市街地環境の保全・形成を目指したまちづくりの実現に向け、区域に含めた。

④笹谷街道南側の水田地帯

かつての笹谷街道南側の水田地帯は、山間の平地における農業の営みがつくりだす景観を形成しており、北側の特徴的な景観を有する農村集落や、市街地と一体的な景観のまとまりを形成していることから、これらと一体で区域に含めた。

※本資料は、景観計画区域設定の考え方に特化して示したものであり、前回会議で示した景観計画の景観形成の目標像や景観形成方針等については、本資料の区域設定の考え方と合わせ、計画全体として今後示す。

区域内で見られる景観



●蔵王おろしと防風林

蔵王おろしから家屋や農地を守るための防風林は、川崎町の気候風土を表す特徴的な景観要素である。傍らに走る国道286号沿いの松並木や合間の農地・水田とあわせ、川崎町独自の特徴的な景観を形成している。



▲家屋・農地を守る防風林

●旧川崎城と城下町の名残がみられる町場

旧川崎城は、城山公園として整備され、小高いところから低層の建物が並ぶ町場を望むことができる。また、旧川崎城下町だった川崎町の中心部では、城攻めに備えクランクした道がそのまま道路となっている場所や入り組んだ町割りなどが今に残り、特徴的な町场景観を形成している。



▲城山公園からの眺望（冬）



▲町中心部のクランク道路
(図内赤丸部分)

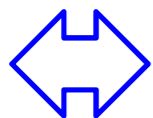
●笹谷街道沿いの松並木

かつて街道沿いには、風避けや日避け、積雪時の道標となるよう並木が植えられた。旧笹谷街道である国道286号沿いにも松並木が残り、街道筋であったことがわかる。街道沿いには、蔵王おろしから家屋や農地を守る防風林が垂直に並び、川崎町の特徴的な景観を形成している。



▲街道沿いの松並木

凡例



地域を象徴する景観が見られるおおよその範囲および向き

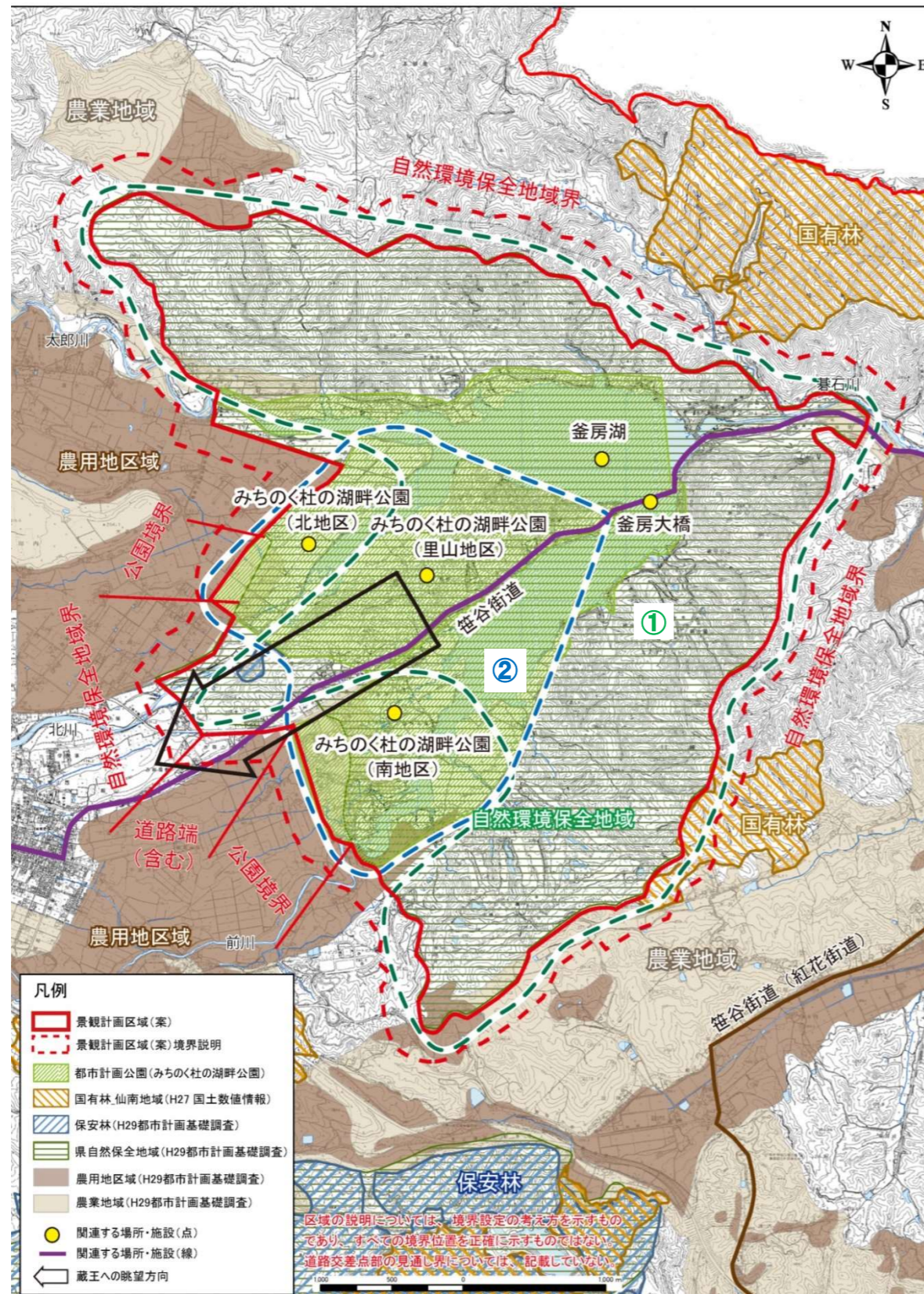


写真の撮影場所・エリアおよび写真の撮影方向



区域名	仙南地域広域景観計画区域		
地区名	釜房湖周辺地区	当該区域を指定する目的	・貴重な水源地であり、広大な水面が広がる釜房湖や湖を取り囲む丘陵地の緑、湖の周囲に整備されたみちのく杜の湖畔公園による雄大な自然景観と、レクリエーションを共に楽しめる景観地について、県自然環境保全地域による保全を図るとともに、湖及び周辺の樹林地による一体的な自然景観の形成を図ることを目的とし、景観計画区域を指定する。
市町名	川崎町		

区域の範囲（位置図）	地区内で見られる景観（景観の概況）
------------	-------------------



■仙南地域らしさを象徴する景観

- ・ダム湖である釜房湖を丘陵地が囲み、広大な水面と緑による雄大な自然景観が形成されている。
- ・湖の中央に丘陵地が入り込んだ地形となっており、湖の中央を横断する釜房大橋からは、前方に緑を中央にして両側に水面、その外側にまた丘陵地の緑が見られる特徴的な自然景観を形成している。
- ・釜房湖湖畔やみちのく杜の湖畔公園南地区からは、水面や公園の花々を前景に、蔵王連峰を遠くに望むことができる。

■地区固有の景観

- ・みちのく杜の湖畔公園南地区では、色とりどりの花による景観や、多目的広場を中心としたにぎわいの景観が見られる。
- ・みちのく杜の湖畔公園里山地区では、かつての薪炭林である雑木林や100年ほど前に植えられたスギ林、谷合いのため池や棚田の跡等、かつての里地里山の姿を伝える景観が見られる。
- ・みちのく杜の湖畔公園北地区では、水田、畑、放牧場等の草地を中心とした牧歌的な景観が見られる。

区域設定の考え方

■基本的な考え方

湖と丘陵地が形成する雄大な自然景観の保全と調和を図るとともに、みちのく杜の湖畔公園においては、湖や丘陵地と一体的な景観形成を目指した区域を設定する。

■個別の考え方

①ダム湖の水面と丘陵部

釜房湖の水面とそれを取り囲み、湖の中央に入り組んでいる丘陵部は、一体で雄大な自然景観を形成していることから、景観の保全・形成を図るため、区域に含めた。

②みちのく杜の湖畔公園

みちのく杜の湖畔公園は、色とりどりの花々による多彩な景観、かつての里地里山の姿を伝える景観、草地による牧歌的な景観が、ダム湖の水面や丘陵部の緑、遠景の蔵王連峰と一体となり多様な景観を形成していることから、周辺の自然景観と一体で景観形成を図るため、区域に含めた。

※本資料は、景観計画区域設定の考え方に特化して示したものであり、前回会議で示した景観計画の景観形成の目標像や景観形成方針等については、本資料の区域設定の考え方と合わせ、計画全体として今後示す。

●釜房湖の水辺を望む景観

釜房湖周辺は、中心部を笹谷街道、北側に県道、南側に町道が通っており、道路を移動しながら広大な水辺と丘陵地の緑が組み合わさった自然景観が見られる。天候によっては遠くに蔵王連峰を望むことができ、来訪者にとって、川崎町、ひいては仙南地域の玄関口となる特徴的な景観を形成している。



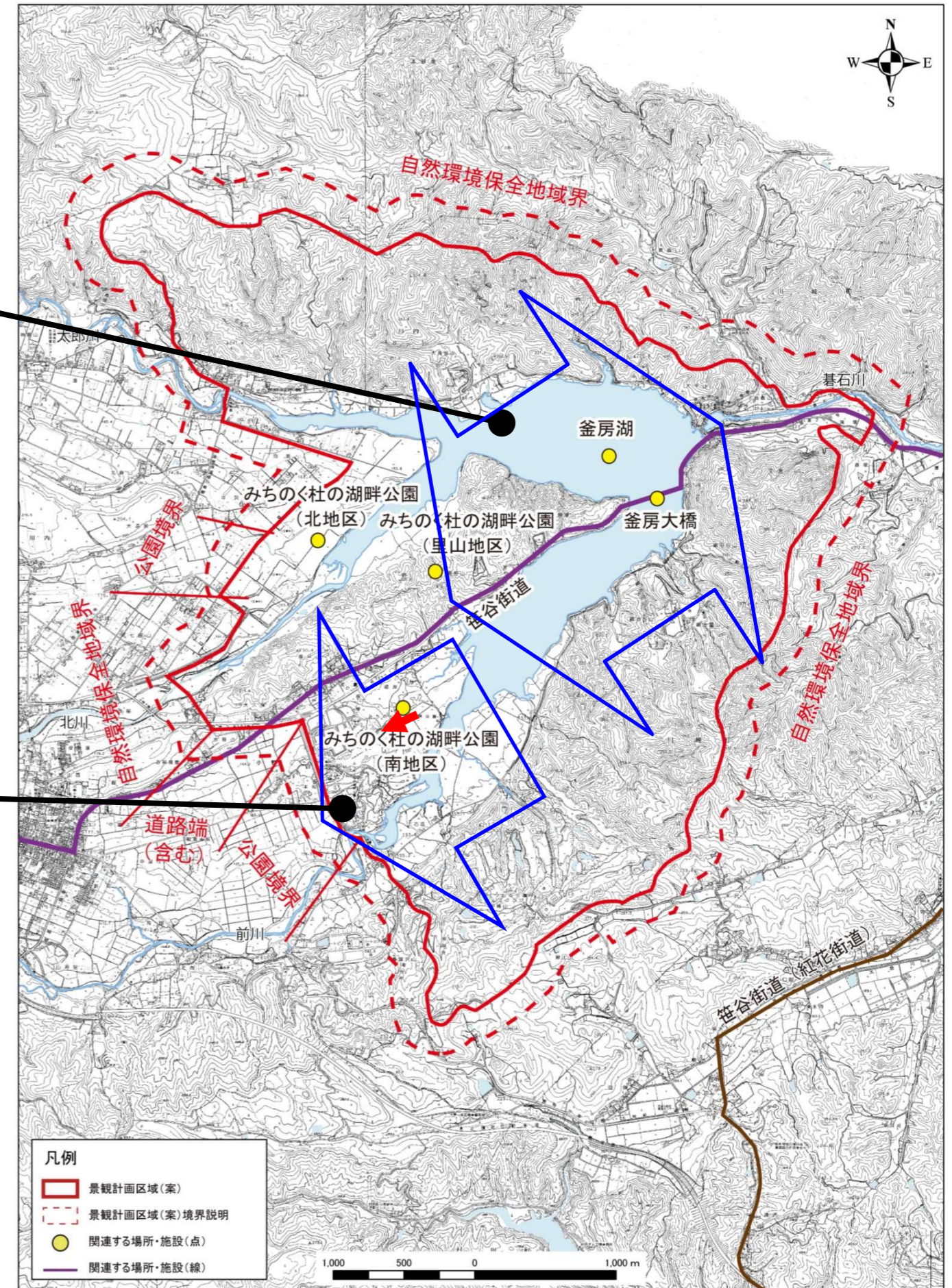
▲釜房湖・釜房大橋と丘陵地の緑

●みちのく杜の湖畔公園

みちのく杜の湖畔公園は、3地区に分かれた広大な公園であり、キャンプやイベントなどのレクリエーションの場として親しまれている。適正に管理された公園内で見られる様々な景観は、遠景に見える蔵王連峰や釜房湖、周囲の丘陵地などと組み合わせ、多様な自然景観を形成している。

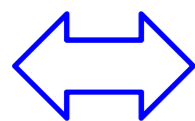


▲みちのく杜の湖畔公園と蔵王連峰(図内赤矢印)



凡例
 景観計画区域(案)
 景観計画区域(案)境界説明
 関連する場所・施設(点)
 関連する場所・施設(線)

凡例



地域を象徴する景観が見られる
 おおよその範囲および向き

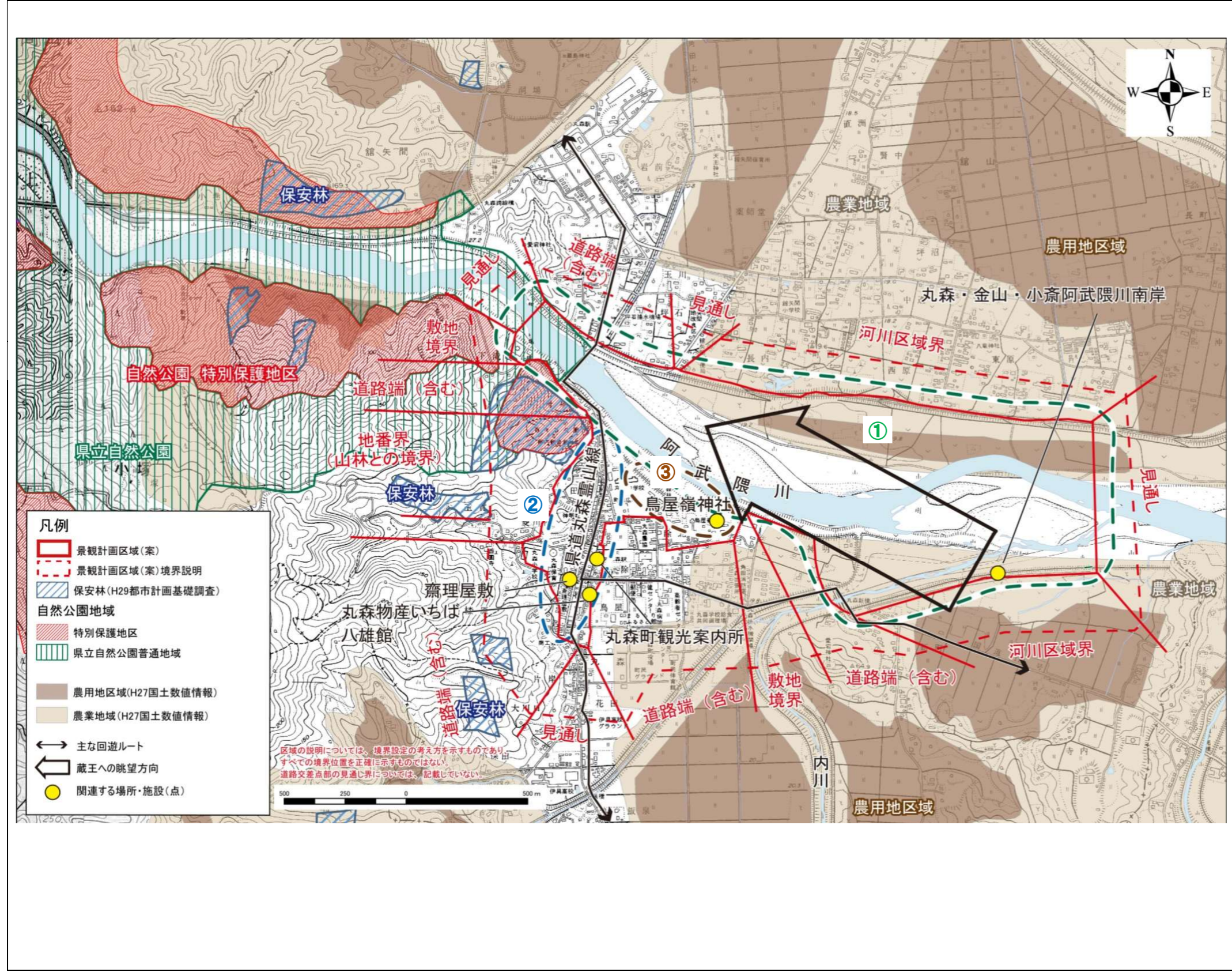


写真の撮影場所・エリアおよび
 写真の撮影方向

区域名	仙南地域広域景観計画区域	
地区名	丸森町中心部地区	当該区域を指定する目的
市町名	丸森町	

- ・仙南地域を代表する水運の町場としての歴史性や阿武隈川との関係性を継承する景観形成を図ることを目的とする。
- ・丸森町の中心部における官民が協力・連携した景観まちづくりのきっかけづくりを目的とし、景観計画区域を指定する。

区域の範囲（位置図）



地区内で見られる景観（景観の概況）

- 仙南地域らしさを象徴する景観
- ・蛇行する阿武隈川により形成される広がりのある水面、蛇行とともに形成される瀬淵、兩岸を結ぶ橋と、周囲の市街地が一体となって穏やかな河川景観を形成している。
 - ・阿武隈川の水運で栄えた商業都市に由来する歴史的な市街地の名残を残す、かつての豪商の店舗を活用した商店や水運に変わるラインくだり等、歴史を活かした景観まちづくりが展開されており、町内でにぎわいの景観が見られる。
 - ・丸森・金山・小斎阿武隈川南岸からは、阿武隈川の水面を前景に蔵王連峰を望むことができる。
 - ・阿武隈川の氾濫により移転する以前の市街地の中心に鎮座していた鳥屋嶺神社は、かつての市街地の名残を今に伝える景観要素となっている。

区域設定の考え方

- 基本的な考え方
- 阿武隈川と水運により栄えた古くからの市街地が形成する歴史的な景観の保全と調和を図るとともに、阿武隈川の雄大な水面や周辺の緑との一体的な景観の形成を目指した区域を設定する。
- 個別の考え方
- ①蛇行しながら阿武隈山地から平野部へ流れる阿武隈川
阿武隈川の雄大な水面や周辺の緑は、本地区の雄大な自然景観を形成するとともに、阿武隈川ライン下りが行われるなど、まちづくりの上でも重要な役割を担っていることから、景観の保全・形成を図る必要があるため区域に含めた。
- ②かつての商業都市の名残が見られる古くからの町場
かつての豪商の店舗を活用した商業店舗をはじめ、商業都市の町割りを残す県道丸森霊山線沿道や西側の山すそ部については、景観の保全・形成を図るため区域に含めた。
- ③かつての町場周辺の市街地
かつて阿武隈川のほとりにあった町場は、水害を避けるために内陸部へと町の中心部を移転した経緯があり、今ではかつての水運の町の名残を伝える重要なエリアである。また、当該エリアは周辺の市街地や河川堤防、周辺の山林などによって、落ち着いた街並みと自然の景観を形成していることから、丸森町中心部や阿武隈川との一体的な景観の保全・形成を図る必要があるため、区域に含めた。

※本資料は、景観計画区域設定の考え方に特化して示したものであり、前回会議で示した景観計画の景観形成の目標像や景観形成方針等については、本資料の区域設定の考え方と合わせ、計画全体として今後示す。

区域内で見られる景観

●かつての商業都市の街並み

角田市方面から阿武隈川を渡り丸森町の中心部に入ると、県道沿いに低層の建築物を中心とした商店が立ち並ぶ街並み景観が見られる。川湊として栄えた町場は、町割りにその名残が見られる。

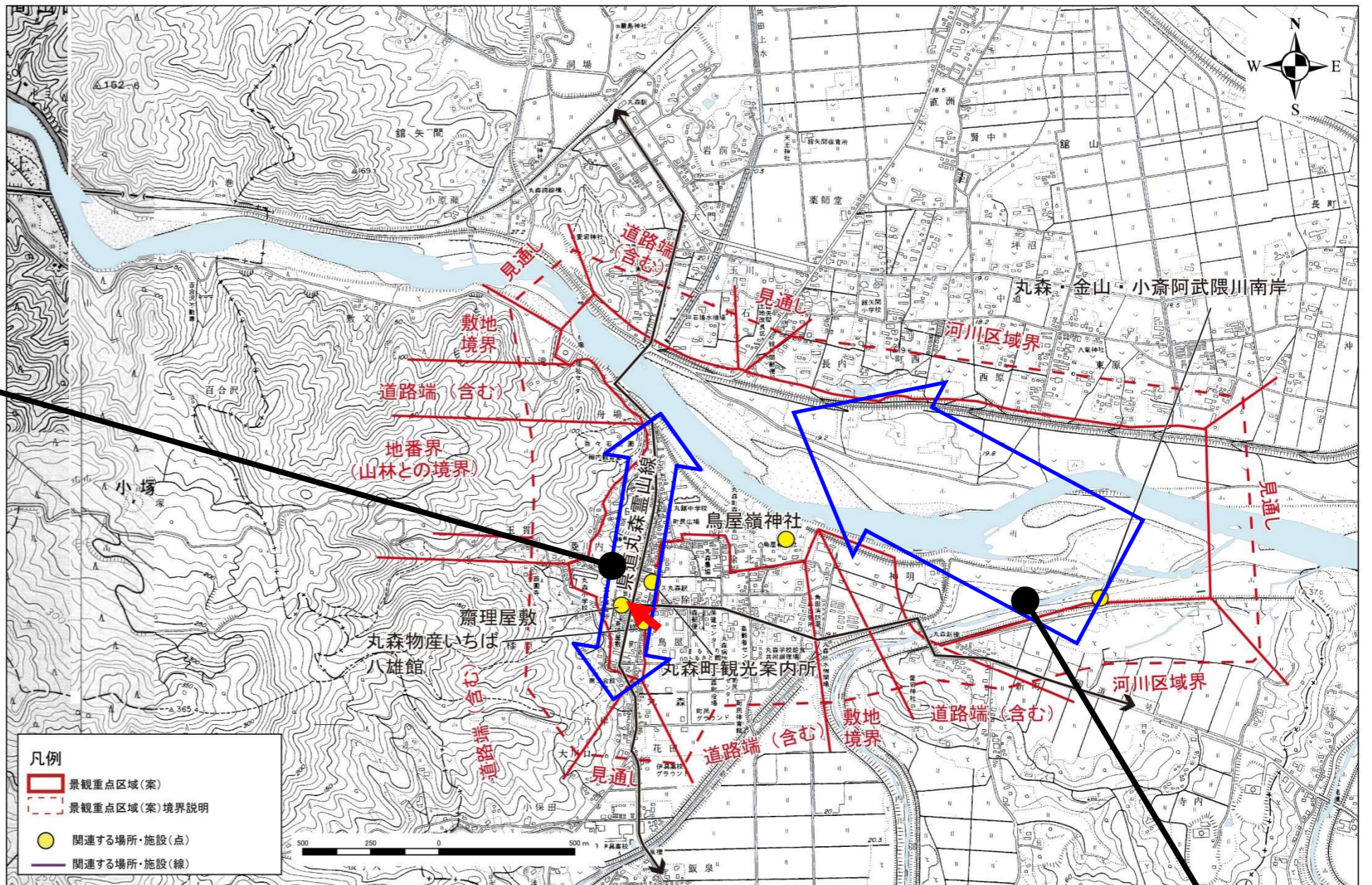
街並みの中には、かつて水運で栄えた豪商の屋敷である「齋理屋敷」が今に残り、観光地やコミュニティの中心としてのみならず、丸森町の歴史的な町場景観を形成する重要な要素となっている。



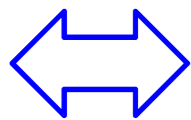
▲古くからの町場



▲齋理屋敷周辺の街並み（図内赤矢印）



凡例



地域を象徴する景観が見られるおおよその範囲
および向き



写真の撮影場所・エリアおよび写真の撮影方向

●雄大な阿武隈川の流れ

阿武隈川は、本地区に入るあたりから川幅が広がり、雄大で穏やかな河川景観が形成される。周辺には平地が広がり、農地や低い丘陵地などが点在し、雄大な阿武隈川の流れとともに穏やかな自然景観を形成している。

天候によっては遠方に蔵王連峰を望むことができ、みやぎ蔵王三十六景にも選ばれる丸森町の象徴的な自然景観を見ることができる。



▲丸森・金山・小斎阿武隈川南岸から望む蔵王連峰